

平成17年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社 梅 の 花
代 表 者 名 代表取締役社長 梅 野 重 俊
(コード番号 7604 東証第二部)
問 合 せ 先 専務取締役 本 多 裕 二
T E L 0942-38-3440

平成17年9月期業績予想の修正について

当社グループは平成17年4月28日に発表いたしました平成17年9月期(平成16年10月1日～平成17年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想

(1) 連結予想 (平成16年10月1日～平成17年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	純利益
前 回 予 想 (A) (平成17年4月28日発表)	19,518	37	253
今 回 予 想 (B)	19,396	39	554
増 減 (B - A)	122	1	301
増 減 率	0.6 %	3.9 %	118.8 %
前 期 実 績 (平成16年9月期)	19,576	425	106

参考：1株当たり予想当期純利益 21,262円14銭

(2) 個別予想 (平成16年10月1日～平成17年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	純利益
前 回 予 想 (A) (平成17年4月28日発表)	6,532	230	106
今 回 予 想 (B)	6,381	299	295
増 減 (B - A)	150	69	402
増 減 率	2.3 %	30.2 %	-
前 期 実 績 (平成16年9月期)	18,761	517	202

注) 当社グループは平成16年9月1日付けで分社いたしましたので、前期実績につきましては、平成16年9月期の個別数値を記載しております。なお、11ヶ月は単独、1ヶ月は個別数値の合計となっております。

参考：1株当たり予想当期純利益 11,339円77銭

2. 修正理由

(1) 連結業績修正理由

売上高につきましては、前回予想に対し西日本梅の花は20百万円（ 0.2% ）減少、東日本梅の花は144百万円（ 2.1% ）減少、梅の花26は16百万円（ 1.8% ）増加、米国レストランは35百万円（ 31.2% ）減少いたしました。従いまして、122百万円（ 0.6% ）減少する見込みであります。

なお、グループ全体の国内既存店の前年比につきましては、上半期は8.9%減と厳しい状況で推移いたしました。下半期3.3%減、平成17年10月は1.5%増と回復基調にあります。

経常利益につきましては、米国レストランの売上高が低迷したことで収益が予想を下回る見込みですが、国内事業におきまして、購買取引の仕入れ価格見直し、適正な発注コントロール、及び人件費コントロールなどを徹底したことにより、前回予想比1百万円（ 3.9% ）増加する見込みであります。

米国レストランにつきましては、業績の回復が見込めないと判断し、平成17年9月に閉店いたしました。従いまして閉店に伴う特別損失358百万円を引当てる見込みであります。

また、新業態として3月にリニューアルいたしました「ワーヤキン（東京都）」は固定費の負担が重く予想した収益が見込めないと判断したため、平成17年10月に閉店いたしました。これにより、特別損失180百万円を引当てる見込みであります。なお、平成17年10月にワーヤキンを有楽町へ移店いたしました。

従いまして、連結業績の見通しは売上高19,396百万円、経常利益39百万円、純損失554百万円を予想しております。

(2) 個別業績修正理由

売上高につきましては、連結子会社の店舗売上高が低下したことにより、食材の供給及びロイヤリティ収入が減少し、前回予想比150百万円（ 2.3% ）減となる見込みであります。

経常利益につきましては、売上高は減少したものの、購買取引における仕入れ価格の見直しを行うなどコスト削減に注力し、前回予想比69百万円（ 30.2% ）増加する見込みであります。

米国レストラン閉店に伴い、米国子会社への債権及び子会社株式の評価損736百万円を引当てる見込みであります。これにより繰延税金資産297百万円となり、法人税等調整額 281百万円を計上する見込みであります。

従いまして、個別業績の見通しは、売上高6,381百万円、経常利益299百万円、純損失 295百万円を予想しております。

米国での事業展開につきましては、今回のレストラン閉店を踏まえ、綿密な市場調査を行い、米国での日本食文化の再構築を目指してまいります。

なお、海外への事業展開につきましては、株主価値を最大化し、経営資源の有効活用を前提とし、積極且つ慎重に行ってまいります。

以上